

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1107 2012年6月号

ニッセイ“土佐山田の森”育樹活動

5月26日、高知県香美市土佐山田町の国有林において「ニッセイ土佐山田の森」育樹活動が行われました。 【詳細は2頁】





手鎌の安全な使い方の説明

当日は、「ニッセイの森」友の会会員（代表 日本生命高知支社長 村田 功二九名、ニッ

「ニッセイ緑の財団」と国が分収造林契約を締結、約1haの広さにクヌギ三〇〇〇本が植樹されているものです。

最初は慣れない鎌での作業で少し戸惑いがあったものの、時間がたつにつれ鎌の扱いにも慣れ、参加者は心地よい汗を流しました。

この日は、前日の雨の影響で足下が滑りやすい条件でしたが、全員が怪我もなく作業を終了することができました。

今回は平成二三年度に実施した四課題の調査結果等に、二四年度新規課題の「囲いわなによる効率的なニホンジカ捕獲試験」を加えた平成二四年度の技術開発実施計画に

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の専門家の委員で構成されています。

「討」では、日本人の体格に合った器具の開発等、今後の調査・分析に期待している。③「囲いわなによる効率的なニホンジカ捕獲試験」では、確実に捕獲がで

改良及び伐採方法の検討」では、日本人の体格に合った器具の開発等、今後の調査・分析に期待している。③「囲いわなによる効率的なニホンジカ捕獲試験」



五月二六日、高知県香美市土佐山田町檜谷立割不寒冬山国有林の「ニッセイ土佐山田の森」において育樹活動が行われました。「ニッセイ土佐山田の森」は、紙資源消費量に相当する緑を育てる趣旨で一九九二年から展開されている「ニッセイ一〇〇万本の植樹運動」の趣旨に基づき、平成一六年に

セイ緑の財団（理事長 新居尊夫）四名と、嶺北森林管理署から五名が参加しました。

主催者、来賓からの挨拶のあと、安全な作業の注意点などの説明を受けた後、三班に分かれて、二〜三mの高さまで育ったクヌギの周りに茂っているカヤ類などを手鎌で刈り払う作業を行いました。



六月八日、四国森林管理局において、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺

について審議を願い意見を伺いました。委員からは、『①「天然林におけるスギ天然更新技術の確立」では、天然

林施業における更新完了ギャップについて、更に様々な調査・分析が必要



平成 24 年度第 1 回技術開発委員会

きて、決して逃がさない方法を開発してほしい。近年愛媛県でも二ホンジカ被害が増加傾向にあることから情報交換を願いたい。』など、各課題に対し多くの意見が出されました。

今回頂いたこれらの意見等を踏まえて、今後の試験地調査、器具の改良などを検討することとしています。

各地のたより

堂ヶ森祭で木工教室

〈ふれあいセンター〉

五月五日子供の日、高知県四万十市と四万十町の境に位置する堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催され、もち投げやちびっこ相撲、おんな相撲などのイベントが行われる中、当センターも青空木工教室を開きました。

五月五日子供の日、高知県四万十市と四万十町の境に位置する堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催され、もち投げやちびっこ相撲、おんな相撲などのイベントが行われる中、当センターも青空木工教室を開きました。

会場の準備が整うと、早速、子どもたちが集まってきました。今回、作製する「くまのストラップ」は、小さな子どもにも簡単に



体験できるように、当センターがサクラの端材などを組み合わせて準備したキットを使います。作るのは難しくありませんが、子どもたちは、どうすればより一層可愛らしくなるかと工夫をこらしていました。

そして、友達と競ったり、姉妹で助け合いながら世界に一つのオリジナルストラップが完成すると、大喜びで家族に披露していました。

近年は、参加する子どもの数が減少しているとのこと、用意したキットも一部、日の目を見ることのないかと心配しましたが、かつての子ども

もの数が減少しているとのこと、用意したキットも一部、日の目を見ることのないかと心配しましたが、かつての子ども



木工教室

に設置されていた雨量観測計。構造物は既に撤去されており、「埋めた場所が分からない！」と、微かな記憶頼りの大捜索が始まりました。

それでも人々から笑顔が消えることはなく、一時間ほどして宝箱が発見されると大歓声や拍手が沸き起こっていました。

国有林は、このように地域の人々の暮らしと関わり、喜びや楽しみを共有してきたのだなど実感させられる一日となりました。

近年は、参加する子どもの数が減少しているとのこと、用意したキットも一部、日の目を見ることのないかと心配しましたが、かつての子ども

また、恒例のお祭りではありましたが、今年はずっともと違うことが一つ。二〇年前にお堂を再建した際の記念に埋めたタイムカプセルを掘り起こすという一大イベントが含まれていました。

ところが、その埋設場所の目印はかつて国有林





親子で木工クラフト

〈ふれあいセンター〉

五月一三日、愛媛県宇和島市立宇和津小学校の四年生二三名と、保護者を対象に、森林教室を行いました。

同校での森林教室は初めてのことで、最初にスライドで当センターの活動内容と「森林の働き」

について説明しました。

「森林の働き」では、森林の持つ「水を蓄える」、「山崩れを防ぐ」、「快適な環境をつくる」、「地球の環境を守る」などの七つの働きについて学習しました。

次に、「木工クラフト」では、最初に、怪我をしないようにノコギリやナイフなど道具の安全な使い方を習った後、製作に取りかかりました。

カッターナイフの使い方

早速、見本を参考に動物のストラップやクマの置物などを作ろうとする女の子。男の子にはカブトムシやクワガタが大人気でした。最後には、ほぼ全員がモックン（鉛筆）を作るなど、親子で仲良く工作する光景が

見られました。

ふれあいの場ともなった初めての森林教室は、保護者にも大変喜ばれ、先生からは、早速、今後の森林教室について相談がありました。

六月三日、徳島県つるぎ町一宇の久敷国有林八三林班周辺で、津志嶽シヤクナゲ登山が行われました。

保護林設定記念の

登山行われる

〈徳島森林管理署〉

津志嶽（一、四九四m）の東面には、他では見られないシヤクナゲの古木が群生しており、古くから地元住民は郷土の宝として大切にしてきました。昨年、つるぎ町から「地域の活性化と振興に資するとともに、

今後ともシヤクナゲ林を適切に保護・管理していくため、郷土の森に設定したい。」との申請があり、九月三〇日に新木森林管理局長と兼西つるぎ町長の間で津志嶽シヤクナゲ郷土の森保存協定が結ばれました。

今回の登山は、この保護林の設定を記念し、シヤクナゲの開花時期に合わせて開催されたもので、つるぎ町が募集した参加者とガイド役のNPO 剣山クラブの方々に加え、スタッフとしてつるぎ町と当署の職員、総勢三四名が参加しました。

当日、麓の久敷集落の阿弥陀堂で開会式が行われ、当署から国有林の

状況と保護林設定の経緯を説明しました。その後、剣山クラブのメンバーから周辺の植物などの説明を受けつつ、津志嶽に登りました。

約二時間で苦しい登りの後、保護林の入口でピンクのシヤクナゲの花を発見した一同から思わず感激の声

はこの登山に合わせたように満開となっていました。この保護林の中には、胸



満開のシヤクナゲを楽しむ参加者